

10・11三里塚現地へ 90年二期概成プラン実力粉碎へ

十月一日、千葉において出向六名の発令が出た。全員鉄道労連、これは動労千葉のスト権確立を頂点としたたかいかいによって動労千葉への出向攻撃が完全に行きづまっている証明である。また、全国的にみても国労現場労働者の不屈のたたかいかいによって、国労組合員への出向は行きづまってしまっている。

こうした状況に業を煮やした敵の手先松崎は、各地方労働委員会に「出向命令取り消しの勧告を出さないように」などと当局に出さないことを、当局にかりかかわって行っているのだ。

出向攻撃は、実力でたたかえば阻止できる。10・11総力決起で、十一月出向（十月中旬事前通知）を阻止しよう！

急迫する三里塚二期、
反対同盟破壊

八月二六日、運輸省・公団の「八八年度概算要求」の発表、九月十八日、B滑走路予定地での草刈りをもって「B滑走路着工」を宣言した。

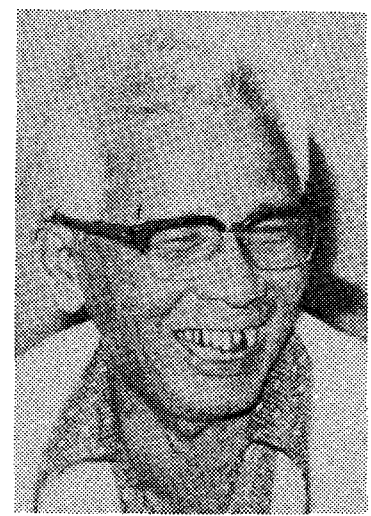
しかし、敵の狙いであった「九〇年二期概成」プランは、反対同盟を先頭にした実力闘争によって破産がつけつけられている。あせりから離れた敵は、「できるところから着工する」と「穴あき方式」でがむしゃらに工事を強行し、同時に、脱落派を呼び水に、反対同盟解体を強めているのだ。

すべての組合員のみなさん！ 十月こそ本年の最大の決戦状況を迎えている。天皇沖繩訪問、三里塚二期着工、国鉄労働者・労働運動への不当・無法な攻撃、組合つぶしをはじめとする中曾根の「戦後政治の総決算」戦争への道を断じて許すな！ 10・11を、「出向阻止、天皇訪沖反対、三里塚二期阻止」のたたかいかいとして、中曾根の戦争政治をたたかう労働者人民の総力をあげて打ち破るものとしてたたかおう！ 10・11三里塚現地へ総力決起をかちとろう！

10・11三里塚は
出向阻止のたたかいかいだ

不屈にたたかう反対同盟、反戦・反核の皆！！ 三里塚を守りぬこう！

どんなことがあっても勝利する
敷地内・加藤 清さん



われわれは二一年間、全国の人らとともにたたかい、いまだ二期を許していない。ここまですばって来た以上、どんなことがあっても闘争に勝利する。全国の人びとの支持を大切に、意地でも負けるわけにはいかない。

小川嘉吉さんたちが、全国の支援の人らを裏切って「反対同盟から『脱退』する」という記者会見までやったが許されることではない。援農等でさんざん世話になっておきながら、手の平を返したように「もう来るな」と支援を排除するとは、あきれものもいえない。

われわれは、いままでどおり、最後までたたかいてぬくのでこれまで以上の御支援をお願いしたい。10・11集会は「脱退」問題が宣伝されただけに、注目を集める大事を集会となった。

かってなく大ぜいの人の結集をお願いする。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！



皇宮来訪の戒厳体制をうちやぶってデモする「主権者県民会議」 9.20 那覇

天皇を拒否する沖繩



天皇の戦争責任―「沖繩戦での集団自決（虐殺）」―「家族で車座に身を寄せ合い、みんなで抱え込むようにして（手榴弾を）炸裂させる。即死ならまだいい。深傷を負ったのたうち回るものが多く、阿鼻叫喚は、一、二日もつづいたという。不発で死ねなかつた家族はもつと哀れだった。地獄のような自決現場の真只中で『死に遅れた』恐怖が彼らを襲った。凶器は手当たり次第で、鋤、鎌、石であった。子供、老婆、婦人の順で殺された。このような、自決という名の大量虐殺が沖繩の各地で強行された。皇軍は、「敵に捕われては、恥さらしになる」と言った。しかし、真相は米軍に軍事機密を知られることの恐れと、持久戦に備え食料を確保するための口べらであった。